

団体名：苫小牧腎友会
回答日：令和8年1月5日

要望書（回答）

- ① 2014年度から始まりました、自家用車による通院補助は、透析患者の通院の多様性や実態に対応しているものです。また、今年度から通院補助額が9,000円から1万円に引き上げられました。昨今の物価高騰の事情に併せて支給額を増額して頂いた事について、心より感謝申し上げます。今後も、本制度を維持して頂くこと、および、本制度を知らない対象者への広報のあり方について検討いただきたく存じます。

【回答】（福祉部障がい福祉課 担当）

透析の通院に伴う経済的負担を軽減し、安心して医療を受けられるようにするため、重度心身障害者通院交通費助成制度は重要であると認識しており、今後も制度の維持に努めてまいりたいと考えております。

また、対象となる可能性のある方へ、制度の案内を送付するなど周知に努めてまいりましたが、より伝わりやすい内容への見直しや、効果的な周知方法について模索してまいります。

団体名：苫小牧腎友会
回答日：令和8年1月5日

- ② 臓器移植は透析患者が透析を逃れる唯一の手段ですが、北海道では 591 人の腎臓移植希望者（令和7年度臓器移植ネットワーク公表データ）が待機しています。今年に入ってから10月までの腎臓移植手術の実績は3件でした。全国と比べ、移植件数が少ないことに加え、北海道の待機人数は他の都道府県に比べ多いため、移植実施までの待機年数が平均20年以上と、たいへん長い状況が続いています。一方で、iPS細胞による再生医療は、我々が透析から免れる有力な手段のひとつであることから、苫小牧腎友会としては、今後も京都大学のiPS細胞研究を応援し続ける所存です。苫小牧市におかれましても、研究活動を下支えするような広報活動をお願いしたく存じます。

【回答】（健康こども部健康支援課 担当）

再生医療は、これまで有効な治療法がなかった疾患に対して新たな治療の可能性を提供するものであり、国民の期待が高まっている一方、新しい医療技術であるため、安全性を確保しつつ、迅速に提供する体制が求められています。

国におきましては、基礎研究から臨床段階まで一貫した研究開発支援を行うことで再生医療等の実用化を推進しているものと承知しております。

本市では、国が進める再生医療・遺伝子治療等の動向を注視してまいりたいと考えておりますが、健康増進計画に基づき糖尿病等の重症化予防として透析の原因となる慢性腎臓病及び糖尿病性腎症の減少を目指しております。

これらの取組のほか、毎年10月の臓器移植普及推進月間に合わせた臓器移植の普及啓発も行っておりますので、再生医療への理解を含めた周知啓発に努めてまいりたいと考えております。

団体名：苫小牧腎友会
回答日：令和8年1月5日

- ③ 苫小牧市の福祉のまちづくり条例第11条には「市は、高齢者、障害者等に関し、災害時における安全性を確保するため必要な措置を講じるよう務めるものとする。」とあります。災害対策の一環として、災害時の要支援者の確認と名簿作成の活動をして頂いていることについて感謝申し上げます。要支援者を把握することは、災害対策の第一歩として意義があることで、今後も本活動を継続して頂けるよう、お願い申し上げます。また、私達の透析には、透析設備とスタッフ、透析機械を動かす電力を得るための予備の発電機に加え、1回の透析につき1人あたり120Lと大量の水が必要です。災害対策に関する市内の透析施設の代表者による会議の実施結果について、事例がありましたら、情報公開をして頂けますよう、お願い致します。また、会議を開催する予定がございましたら、腎友会役員を同席させて頂きたく存じます。

【回答】（健康こども部健康支援課 担当）

市内の透析施設の代表者による透析連携ミーティングにつきましては、今年度から再開したところです。

次回以降の開催にあたりましては、当事者のお声も共有する必要があることから貴会へお声掛けをさせていただきたいと考えております。